



たくましい村松っ子

5月の生活目標：落ち着いた生活をしよう

令和8年5月26日 第4号
文責：校長 日高 文博

全ての人に生きる価値がある！

学芸会に向けて、子どもたちと劇をつくったことがあります。宇宙人がやってきて、今の地球をもっといい地球にするために欠点だらけの人間を消していくというものです。主人公のハジメは勉強も運動もできない、力も弱い、見かけもあまりよくない子どもで、いつも友達にバカにされ、家族からもあきられています。ある日、宇宙人がやってきて、能力の低い主人公は社会では必要ないからとハジメを消去しようとした時、友達や家族がみんな彼の価値を宇宙人に伝えて、消去しないように頼むという物語です。

そこで、宇宙人は気付くのです。どこにも欠点のない正方形のような自分たちがつくりあげる社会よりも、ジグソーパズルのようにでこぼこな人間が未完成な部分を補い合いながらつくり上げる社会のほうが強いつながりのある社会になるということに。

消去されそうなハジメの価値を必死で宇宙人に伝えるセリフを子どもたちが考えました。

- ★勉強ができなくてもだれの迷惑にもならないからいいじゃないか。
- ★教えてあげるのは、私が気持ちがいいの。
- ★運動が得意な僕をいつも「すごいなあ」と言ってくれるからうれしい。
- ★力が弱いから暴力を振るわないので、一緒にいて安心できる。
- ★見かけなんて問題ないし、見慣れたらかわいい。
- ★どんな子どもだって生きていてくれるだけで、私（母）の生きる喜び。

得意なことをもっている友達が、何もできないハジメによって認められたり、役に立つ経験をしたりする中で自己実現できているということを子どもたちはきちんと分かっています。周りの人を元気づけることができるという点はハジメが一番優れていて、**全ての人に生きる価値がある**のです。

学校だけでなく、人間社会の中には多かれ少なかれ「いじめ」があります。それに苦しんで「自分は必要ない人間だ」と命を絶つ人が毎年たくさんいます。お互いの違いを受け入れ合って、自分にできるかわり方をする。そんな自然な人間関係を当たり前のようにつくれる温かい子どもたちに育てたいというのが私の教育方針です。

それは学校生活のすべての時間の中で、子どもに考えさせ、子どもに活動させ、子どもの力で協力しながら壁を乗り越えさせることに尽きます。学校生活は自分の価値を感じるためにあるのです。そのために学校生活の中にはたくさんの役割があります。役に立つ喜びを学ぶ最高の場所が学校です。お休みしないで毎日学校へ来てほしいと願っています。

運動会

5月24日（日）は天候にも恵まれ、多くの皆様に前日準備や当日の係、後片付けまでご協力いただきながら、無事に開催することができました。保護者の皆様や地域の皆様、来賓の皆様にご支援いただいていることを改めて感じた一日となりました。

子どもたちはこれまでの約3週間で学んできたことを精一杯発揮し、全力の姿を見せてくれました。今回も村松っ子のよさや頑張りを皆様にお届けできたのではないかと感じています。

今後は、運動会までの取組を通して高めた力を学校生活の中で生かし、さらに高めることができるよう支えていきます。

温かいご声援をありがとうございました。



※画像は個人が特定されないように処理しています。